

令和5年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	教育厚生委員会
参加委員	◎飯島 伴典 ○齊藤加代美 泉 弥生 飯島 裕貴 高田 忍 池上喜美子 池田総一郎

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

上田市では、血糖の高い方が多い傾向にあり、糖尿病のリスク要因となっていること、また、県内19市中で医療費が最も高いことが課題となっている。

砺波市では、糖尿病予防の取組としてとなベジプロジェクトを展開し、成果を上げていることから、上田市の課題解決に向け、本事業を参考とするため視察を行った。

2 実施概要

実施日時	視察先	富山県砺波市
令和5年8月1日 10時00分～11時30分	担当部局	福祉市民部 健康センター
視察事業名	となベジプロジェクトについて	
報告内容	<p>1 視察先の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口 約47,000人 ・年少人口割合 11.9% ・生産年齢人口割合 56.9% ・老年人口割合 31.1% <p>2 視察先の特徴</p> <p>砺波平野の中央に位置し、庄川の扇状地に屋敷林に囲まれた家々が点在する散居村が広がる。</p> <p>水田裏作として始まったチューリップ栽培は年間550万球以上を出荷している。春のチューリップフェアには全国から多くの観光客が訪れている。</p> <p>3 視察事項について</p> <p>(1) 取組のきっかけ</p> <p>砺波市がこのプロジェクトを始めたきっかけは、HbA1c有所見者の割合が、40代・50代でそれぞれ急増したことである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40代 平成26年：22.5% → 平成30年：34.3% ・50代 平成26年：35% → 平成30年：45.5% 	

また、成人の1日の野菜必要摂取量は350gだが、市民の平均摂取量は280gと70g不足しており、特に働き盛り世代で少ないことがアンケート調査から明らかになった。

こうした状況の中、砺波市では40代から50代の糖尿病リスクの軽減を目的に、血糖値の急上昇抑制などの野菜の効果に着目し、令和元年度から、働き盛り世代が身近に手軽に野菜を食べる機会を増やす取組として、となベジプロジェクトを展開することとなった。

キャッチフレーズは「野菜を食べよう！野菜から食べよう！」である。

(2) プロジェクトの推進体制

ア チーム作り

行政が、食生活改善推進員、ヘルスポランティア、母子健康推進員、スーパーなど市民や企業と、無理のない範囲で協働体制を作った。

イ レシピ作り

小学生が、総合的な学習で郷土料理「よごし」について学び、オリジナルレシピを考案。「よごしグラタン」「こまたまよごし」「栄養満点！シャキシャキよごし」の3レシピが商品化された。

また、市民からもレシピを募り、令和5年7月10日現在で、713のレシピが「砺波市公式キッチン」としてcookpadに公開されている。アクセス数は760万。

ウ コミュニティの雰囲気づくり

野菜を積極的に摂る雰囲気を醸成するため、ポスター、リーフレット、機関紙、のぼり旗や法被、ポロシャツなどを作り、となベジを広く町中に宣伝している。

(3) 成果

ア 参加メンバーの意識や行動の変化

①ヘルスポランティア・食生活改善推進員

ヘルスポランティアは、スーパー店頭でPOPを展示し、買い物客に「野菜を先に食べてね」とPR、テレビや新聞などに活動が取り上げられ、活動意欲が急上昇している。

また、ヘルスポランティアと食生活改善推進委員と一緒にスーパーで野菜摂取量測定会（ベジチェック）を実施し、野菜摂取の大切さの見える化に取り組んでいる。一日で200から300人がベジチェックを行い、好評を博している。

②食生活改善推進委員

レシピを開発し、cookpadへの掲載や地元ケーブルテレビへの出演を通じ、お手軽レシピを紹介している。

③母子保健推進委員

1歳児のいる家庭を訪問する際、「となベジ」のパンフレットを手渡している。

④スーパーマーケット

市民から応募のあった野菜レシピで作った総菜を販売し、特に若年層から好評を得ている。

⑤飲食店

野菜たっぷりメニューの提供やベジファーストでの料理を提供する店が増加している。

⑥保育園、認定こども園等

給食の時間に「野菜から食べようね」と指導している。

⑦給食センター

献立表で「となベジ」を紹介したり、砺波産の人参とリンゴ果汁を使った「となベジゼリー」を提供している。

⑧農業振興課

地産地消と食育の推進に取り組み、砺波市産野菜の消費拡大を図っている。

イ 健康指標の変化

HbA1cの有所見者の割合が大きく低下。

・40代 平成30年：34.3% → 令和3年：21.6%

・50代 平成30年：45.5% → 令和3年：30.2%

(4) プロジェクトの予算

令和元年度 13万円

2年度 16万円

3年度 一般財源から42万円 国保財源から76万円

4年度 一般財源から41万円 国保財源から56万円

5年度 一般財源から51万円 国保財源から53万円

※令和3年度からは国保ヘルスアップ事業と連携

(5) その他

砺波市の特定検診受診率は60%台で推移している。かかりつけ医を持つ市民が多く、医師からの勧奨を受けて受診する市民が多いことが推測される。

考 察

(まとめ:市
政に活かせる
と思われる
事項等)

となベジプロジェクトについて、注目すべき点は3つある。

一点目は、野菜から先に食べる「ベジファースト」を市民に広く啓発していることである。野菜を先に摂取することは、血糖値の上昇緩和につながるということが医学的にも証明されている。

二点目は、プロジェクトの推進体制である。健康と食に携わるあらゆる市民と行政が同じ方向を向き、市内全域で啓発活動を展開している。また、cookpadのようなウェブを駆使して手軽にレシピを参照できる仕組みも作られている。さらに、スーパーなど市民が日々立ち寄る場所で、野菜摂取量の測定を行うことで、見える化を図り、主婦層を中心に自分ごととしての関心を高めるための工夫も施されている。

三点目は、こうした取組の成果として、40代から50代のHbA1cの有所見者の割合が4年間で15%も低下していることである。

上田市は血糖の高い方が多いことが大きな課題になっているが、となベジプロジェクトの実績を見る限り、本取組は単なるキャンペーンや一時的なものではなく、実効性を伴う施策として上田市は大いに見習うべきである。

また、本取組とは別に、砺波市の特定健診受診率は60%を超えており、富山県内でも高いことは見逃せない点である。砺波市ではかかりつけ医を持つ市民が多いとのことだが、上田市の特定検診受診率の低さは県下でもワーストクラスである中、上田市でもかかりつけ医、かかりつけ薬局等を持つことを広く周知し、また、医師会にも特定検診の受診を勧奨するの願いをしていくことも大切な視点だと感じた。



※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

令和5年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	教育厚生委員会
参加委員	◎飯島 伴典 ○齊藤加代美 泉 弥生 飯島 裕貴 高田 忍 池上喜美子 池田総一郎

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

令和5年4月にこども家庭庁が創設され、年齢や制度の壁を克服した切れ目のない支援の実現が目指される中、こども政策に関する部局間の連携が重視されている。

岐阜市では、「岐阜市子ども・若者総合支援センター“エールぎふ”」を設置し、0歳から20歳前までのこども・若者やその保護者などの悩みや不安に対し、関係機関と連携し、ワンストップで総合的・継続的に支援している。

上田市においても、ひとまちげんき・健康プラザうえだに窓口を集約し、関係課が連携をしながら、こどもに関する相談に対応しているが、部局間の連携によるさらなるこども政策の充実に向け、岐阜市の取組を調査する。

2 実施概要

実施日時	視察先	岐阜県岐阜市
令和5年8月2日 10時00分～11時30分	担当部局	子ども未来部 子ども・若者総合支援センター
視察事業名	岐阜市子ども・若者総合支援センター“エールぎふ”について	
報告内容	<p>1 視察先の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口 約40万人（中核市） ・面積 203.60km² ・岐阜県の南西部、名古屋駅から約20分の距離に位置。 <p>2 視察先の特徴</p> <p>戦国時代には金華山の麓の旧岐阜町が美濃斎藤氏のちに織田信長が治める城下町として発展。江戸時代には幕府の直轄地のちに尾張藩領となり岐阜奉行所が置かれ、岐阜四十四町からなる商工業の中心地として栄えた。戦後は繊維産業で栄えた。現代では中京圏に属し、名古屋市の衛星都市・ベッドタウン的な性格を持つ一方で、岐阜県の行政・商業・情報の拠点として機能している。</p>	

3 視察事項について

(1) エールぎふの概要

ア 組織体制

①乳幼児相談係

- ・乳幼児の発達に関する相談
- ・エールぎふ診察室（小児科医による診察）
- ・交流保育等の地域支援

②親子支援係

- ・親子教室の運営
- ・子育て、就園相談

③乳幼児支援係

- ・幼児支援教室（8か所）の運営
- ・就園、就学相談
- ・幼保小の連携

④家庭児童相談係

- ・児童虐待防止、啓発
- ・特定妊婦支援
- ・養育支援訪問事業
- ・要保護児童対策地域協議会の運営
- ・子ども見守り宅食支援事業

⑤発達支援係

- ・通常学級に在籍する学習や集団生活につまづきのある児童生徒及び保護者・学校に対する相談・支援
- ・育てにくさを感じている保護者への支援（ペアレントトレーニングなど）
- ・放課後居場所づくり事業

⑥教育支援係

- ・不登校児童生徒及び保護者に対する相談・支援
- ・子ども・若者自立支援教室（4か所）の運営

⑦才能伸長・自立支援係

- ・義務教育修了後から20歳前までの若者に対する就学・就労に関する支援等若者への包括的支援
- ・問題行動やいじめの問題の当事者である児童生徒及びその保護者に対する相談・支援

イ 職員数

センター全体の職員数は、社会福祉士や保健師、SSW等資格所有者を含む122名である。また、小児科医や児童精神科医等の専門アドバイザーが17名在籍している。

ウ 予算額

令和5年度の当初予算額は、668,928千円、うち人件費は553,518千円である。

また、エールぎふは廃校した小学校を利活用しており、整備費は外構工事を含め、4億1500万円余かかっている。

(2) 開設までの経緯

平成22年度に、市長が岐阜の教育・子育てを総合的に支える施設の構想化に着手すると方針を示したことからスタートした。また、当時の教育長が多様化、複雑化する子供達の問題や子供達を抱えて思い悩む保護者に対して、生徒指導・教育相談、特別支援教育の枠を超えて連携し、総合的な対応をするため、少年センター（小中学生の非行、いじめ、不登校、発達障がいに関する相談機関）を総合教育支援センターへ再編拡充していく方向性を示した。

こうした方針のもと、多様化・複雑化する子どもの課題に対し、首長部局と教育委員会にまたがる下記の機関を集約し、「岐阜市子ども・若者総合支援センター“エールぎふ”」を開設した。

- ・首長部局（福祉部）所管：発達相談センター、こども家庭課家庭児童相談係
- ・教育委員会所管：私立幼稚園ことばの教室、少年センター

(3) 児童虐待への対応強化

ア 子ども家庭総合支援拠点の設置

平成31年4月に児童虐待の未然防止・要支援児童等の早期支援に向けた体制強化を図るため、こども家庭総合支援施設拠点をエールぎふに設置した。

イ こどもサポート総合センターの設置

令和4年2月に、岐阜県、岐阜県警、岐阜市、市教育委員会の4者が「児童虐待事案等に係る連携に関する協定」を締結。

4者の関係機関（児童相談所分室や県警の少年サポートセンター分室等）で構成されるこどもサポート総合センターをエールぎふ内に設置した。センターの設置により、児童虐待の報告が入った場合、合同受理会議を開催し情報を即時共有、立場の異なる機関が同時にリスク評価を行うことにより重篤のケースを見逃さないことに繋がっている。

令和4年の虐待受付件数は541件で、前年比約1.7倍となったことは、こどもサポート総合センター設置の大きな成果である。

(4) 相談件数と相談内容

令和4年度の実人数は3,158人、そのうち新規相談の実人数は429人。延べ件数は22,775件で、平成26年度の開所当初から、約2倍に増えている。エールぎふに繋がっている対象者は10人に1人の割合である。相談形態は約半数が電話相談。相談内容のうち、乳幼児に関する相談は37%で多数を占める。今後、タブレットに直接相談できるようなアプリを入れて、繋がりをやすくすることを考えている。

	<p>(5) NPO法人との連携した施策</p> <p>ア 子供の居場所づくり事業 小中学生を対象にNPO法人1団体に委託をしている。発達障がいのある児童生徒への学習支援等を行う。</p> <p>イ 宅食見守り支援事業 見守りが必要な家庭に、週に1回弁当を配達している。配達を通じ家庭の雰囲気分かり、配達担当からフィードバックが直接もらえ、支援会議に繋げることできる。熱心な教員OBや民生委員などが対応しており、宅食事業は3団体に委託している。</p> <p>(6) 親子教室 子どもの健全な育成を阻むのは保護者の無理解であるという前提に立ち、親子支援係では親子教室を開催している。子どもは、遊びを通じ、心を動かしながら言葉やコミュニケーション力を身につけ、大好きな大人から褒められる経験を重ね、自分への自信、身近な大人への信頼を育む。保護者は、育てにくい子、育ちにくい環境への理解を通じ、子供への愛着を深める。</p> <p>(7) こども家庭センター 令和6年度設置予定。子ども家庭総合支援拠点（児童福祉）と母子健康包括支援センター（母子保健）との連携により、生まれる前（お腹の中）から若者まで、切れ目ない支援に繋げる。</p>
<p>考 察 (まとめ:市政に活かせると思われる事項等)</p>	<p>エールぎふは、市政方針であるこどもファーストのもと、「困ったらエールぎふへ」を合言葉に、組織としての発展や成長を続けながら、子どもやその保護者などに対し、漏れなく切れ目のない支援に取り組みされており、所長をはじめ、激務をこなす職員はその熱意、姿勢に感銘を受けた。</p> <p>上田市は、平成22年にひとまちげんき健康プラザうえだを開所し、平成28年には子育て世代包括支援センターを設置し、妊娠から子育てまで切れ目なくサポートを進めているが、多様化・複雑化する子どもに関する問題への対応策として、エールぎふのようなワンストップの相談窓口は大変参考となる事例であると思われる。</p> <p>また、行政や学校だけでは要支援者を見つけることが困難なことが多い中、支援者を見つけ出しファーストコンタクトを取るには、宅食見守り支援事業のようなNPO法人と連携した取組や、上田市における18歳以下の子どもの電話相談「チャイルドライン」や家庭や行政の間の安心した居場所「やどかりハウス」といった地域のNPO法人等とのさらなる連携が効果的ではないかと考えられる。</p>



※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

令和5年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	教育厚生委員会
参加委員	◎飯島 伴典 ○齊藤加代美 泉 弥生 飯島 裕貴 高田 忍 池上喜美子 池田総一郎

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

人生100年時代に向けて、健康寿命の延伸と健康無関心層への行動変容を促すことは上田市の課題である。市民の幸せをキーワードに、共創という視点を加え、市民や地域、様々な機関と連携し先進的に事業を進めている三島市の取り組みを学ぶ。

2 実施概要

実施日時	視察先	静岡県三島市
令和5年8月3日 9時30分～11時00分	担当部局	健康増進部 健康づくり課
視察事業名	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートウエルネスみしまについて ・第2次三島市健康づくり計画について 	
報告内容	<p>1 視察先の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口 106,489人 ・高齢化率 30.3% (令和5年5月31日現在) ・市内には、日本大学国際関係学部・短期大学部、順天堂大学保健看護学部がある。 <p>2 視察先の特徴</p> <p>東海道五十三次の五大宿場町の一つで、富士・箱根・伊豆の玄関口、三嶋大社の門前町として発展した。新幹線で品川まで最短37分、箱根まで車で20分の距離にあり、三島駅にはJR線と伊豆箱根鉄道が乗り入れ、県東部地域の交通の拠点になっている。富士溶岩の下から湧く地下水は工業用水に適し、大手メーカーの工場も立地している。温暖な気候、湧水、あふれる緑と環境</p>	

に恵まれ、令和2年には、静岡県内で転入超過1位となり、令和3年には、本当に住みやすい街大賞（アルヒ株式会社主催）で静岡県内1位を獲得した。

3 視察事項について

(1) スマートウエルネスみしまについて

ア スマートウエルネスみしまの構造

健やかで幸せに暮らせるまちを目指し、「健幸都市みしまのたまご」として構造の関係性を図式化している。その核には、①食と運動・スポーツを中心とした健康づくりを位置付け、その外側には社会参加の仕組みづくりとして、②いきがい・きずなづくりを据え、③地域活性化・産業振興がこれらを包み込むイメージとしている。

イ アクションプラン

(ア) 概要

スマートウエルネスみしまの取組の指針として、アクションプランを策定している。策定にあたっては、市役所内にプロジェクトチームを立ち上げ、事業を考案した。

第5次三島市総合計画（令和3年度～12年度）では、「つながりを力に変える」を基本理念とし、市民や企業、行政等が個々のもつ知識や経験を生かし、地域をともに創る共創のまちづくりを目指していることから、令和4年度からの第4期アクションプランでは、スマートウエルネスの3領域に、共創の視点を加えた。

(イ) 目標

アクションプランでは、65歳からの平均自立期間いわゆるお達者度の延伸、市民意識調査における幸福度の向上を目標に掲げている。

※お達者度：静岡県独自の指標で65歳から介護を受けたり病気で寝たきりになったりせず自立して健康に生きる期間

お達者度は平成21年度から令和元年度の10年間で

男性は1.24ポイント、女性は0.19ポイント上昇した。

また、令和3年度は、10段階評価で7以上の幸福度の市民が61.4%と割合が高く、前年から約2ポイント上昇した。

(ウ) 重点プロジェクト

①スマートウエルネスタウン

高齢化が進む住宅団地の人とまちを健幸にするために、関係課とプロジェクトチームを発足し、取り組む。

②健幸DXの推進

ヘルスリテラシーとITリテラシーの向上を目指し、健幸づくりアプリ「KENPOS」を作成し、運用している。

③ふらっとミチクサ大作戦

ストリート（人々が居心地よく過ごし、まちの魅力をつなぎ合わせる空間）を活用し、まちをげんきにするために、スポーツや音楽に関するイベント等を実施。

④地域の力を活用した健幸づくりとリカレント教育

人生100年時代のウエルビーイングを目指して、生涯学習センターの夜間無料化などを実施。

⑤サイクリングライフのすすめ

自転車競技チームが市内に拠点を置くブリヂストンとの連携などを通じ、健康無関心層が体を動かすきっかけを作るため、自転車活用を推進。

ウ 歩きたくなる環境、仕組みづくり

①ガーデンシティみしま事業

行政、地域、企業がそれぞれ花壇を維持管理し、自然と歩きたくなる街並みを協働で整備。

②街中がせせらぎ事業

③健幸マイレージ事業

紙ベースのカードでポイントを貯め、抽選で景品が当たる。スマートフォンを使い慣れていない高齢者など向け

に、「KENPOS」以外にもポイントを貯めることができる仕組みをつくっている。

エ その他の取組

(ア) 運動習慣化の取組

スポーツ保育事業、みしま健幸体育大学での講座

(イ) 健康経営支援

働く世代の健康づくりを行政が支援する。

(ウ) ベジメータ測定による野菜接種測定

野菜接種量を見える化し、特に摂取量が少ない働く世代の野菜不足を改善する。

(2) 第2次三島市健康づくり計画について

ア 策定にあたり特に重視したこと

- ・各分野間の連携を一層進め事業の相乗効果や効率化を図るため、健康づくりを総合的かつ一体的に推進する。(食育基本計画、歯科口腔保健計画、自殺対策計画の要素を盛り込んだ。)
- ・健康寿命の延伸に重点を置く。
- ・計画には取組の方向性まで記載し、個別の事業などは実施計画を策定し、外部会議に報告し意見を聴取する中で、毎年見直ししていく。(PDCAサイクルの構築)

イ 推進体制

三島市の健康づくり推進協議会、いのち支える地域ネットワーク会議、食育推進会議、歯科口腔保健推進会議の4つの外部会議が、庁内の連絡会議と連携している。

ウ 計画における感染症分野の取組

新たな感染症流行を想定した対策として、医師会と連携し「新型コロナウイルス感染症と予防接種への対応 記録と検証」を策定した。特に、発生初期段階における医療機関等との有機的な連携を図るためのものである。

<p>考 察</p> <p>(まとめ:市政に活かせると思われる事項等)</p>	<p>1 スマートウエルネスみしまについて</p> <p>三島市は、多岐にわたる事業を展開していることは上田市と共通しているが、健幸都市づくりを推進するため、どの事業にも「共創」の理念が一貫していた。</p> <p>健康づくりアプリ「KENPOS」は、ポイントと交換できる3,000種類もの景品を揃えており、インセンティブを付けることで、無関心層を取り込むことに繋がるものと考えられる。また、今後は、健康関連以外のイベントや講座へのポイント付与の拡大や企業対抗キャンペーンの実施、健康経営支援との連携を図ることでさらなる無関心層の獲得を目指す予定である。上田市の健康づくりチャレンジポイント制度においても、無関心層をターゲットにする視点での景品の付与を、企業との連携による取組も含め、改めて提案したい。</p> <p>また、三島市は、市内にある順天堂大学と連携して、スマートウエルネスの拠点を整備していくとのことであるが、上田市も学園都市を標榜している中であって、専門学校や大学とのさらなる連携を探っていくべきと考える。</p> <p>2 第2次三島市健康づくり計画について</p> <p>第2次三島市健康づくり計画は、食育基本計画・歯科口腔保健計画・自殺対策計画が計画期間の途中であったにもかかわらず一旦評価をし、基本目標である健康寿命の延伸に向け、三つの計画も含めた一体化の計画とした柔軟性を高く評価したい。</p> <p>上田市議会発の「上田市人生100年時代をより良く生きる健康づくり条例」が、市の様々な計画とリンクしながら健幸推進に寄与されていくよう、議会内での議論を深めたい。</p> 
-----------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと